

第2章 保健予防

保健予防課

1 予防接種

(1) 定期予防接種

予防接種法により一定の年齢に達した者に対して、結核（BCG）、ジフテリア・百日せき・破傷風・急性灰白髄炎（ポリオ）、麻しん・風しん、日本脳炎、ヒブ感染症、小児の肺炎球菌感染症、HPV感染症（子宮頸がん等）、水痘、B型肝炎、ロタウイルス感染症、インフルエンザ、高齢者の肺炎球菌感染症の予防接種を実施している。実施後は、「予防接種済証」を交付している。（乳幼児の場合は、母子健康手帳への記載に代える。）

定期予防接種実施状況

種 別		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		
		交付	実施	交付	実施	交付	実施	交付	実施	接種率
BCG		1,587	(2) 1,498	1,584	1,564	1,511	1,410	1,415	(1) 1,337	94.5%
(4種混合) DPT・IPV	I 期 初回	1,649	1,541	1,599	1,521	1,566	1,472	1,527	(1) 1,367	89.5%
	2 回目	1,647	(1) 1,577	1,605	1,581	1,577	1,472	1,534	(1) 1,369	89.2%
	3 回目	1,679	(1) 1,524	1,618	1,595	1,595	(1) 1,433	1,532	1,346	87.9%
	I 期追加	1,532	1,380	1,482	1,451	1,362	1,284	1,316	1,191	90.5%
DTⅡ期(2種混合)		1,081	585	1,054	782	1,199	765	1,111	723	65.1%
(麻しん風しん) MR	I 期	1,501	1,445	1,568	(1) 1,491	1,368	1,288	1,303	1,295	99.4%
	II 期	1,206	1,115	1,285	1,200	1,259	1,147	1,224	1,140	93.1%
麻しん	I 期	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	II 期	—	—	—	—	—	—	—	—	—
風しん	I 期	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	II 期	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	V 期	抗体検査	12,989	1,272	15,878	2,568	—	902	24,250	864
予防接種		12,989	286	15,878	436	—	194	24,250	181	0.7%

種 別			令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度			
			交付	実施	交付	実施	交付	実施	交付	実施	接種率	
日本脳炎	I期	1回目	1,414	(2) 1,285	1,473	1,472	1,230	(2) 1,100	1,226	(1) 1,105	90.1%	
		2回目	1,431	(1) 1,245	1,489	1,478	1,239	(1) 1,090	1,231	1,068	86.8%	
		追 加	1,389	1,137	1,486	1,201	220	449	1,197	1,612	134.7%	
	I期特例	1回目	50	51	85	53	44	32	25	36	144.0%	
		2回目	65	46	97	59	49	27	28	29	103.6%	
		追 加	115	110	157	93	77	51	52	55	105.8%	
	II期		1,403	881	1,381	1,094	185	352	1,342	1,402	104.5%	
	(不活化) ポリオ	I期初回	1回目	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
			2回目	0	0	2	0	0	0	0	0	0.0%
3回目			0	0	1	0	0	0	0	0	0.0%	
I期追加		2	1	2	3	0	1	1	1	100%		
ヒブ感染症	初回	1回目	1,671	(1) 1,585	1,581	1,571	1,581	1,501	1,426	1,387	97.3%	
		2回目	1,683	1,540	1,598	1,587	1,599	1,481	1,438	1,373	95.5%	
		3回目	1,698	(1) 1,492	1,612	1,602	1,613	1,467	1,449	1,360	93.9%	
	追 加		1,540	1,357	1,560	(1) 1,559	1,403	1,276	1,322	1,244	94.1%	
小児の肺炎球菌感染症	初回	1回目	1,675	(1) 1,593	1,585	1,564	1,585	1,503	1,427	(1) 1,389	97.3%	
		2回目	1,684	1,567	1,597	1,568	1,600	1,482	1,439	1,375	95.6%	
		3回目	1,701	(1) 1,529	1,610	1,563	1,614	1,466	1,451	1,356	93.5%	
	追 加		1,501	1,402	1,566	(1) 1,545	1,376	1,265	1,306	1,280	98.0%	
HPV感染症	1回目	32	25	303	180	318	246	1,884	226	12.0%		
	2回目	33	26	303	113	314	270	1,884	216	11.5%		
	3回目	33	23	299	59	315	245	1,885	191	10.1%		

種 別		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		交付	実施	交付	実施	交付	実施	交付	実施	接種率	
(H キャ ッチ ア ッ プ 感 染 症)	1 回 目	—	—	—	—	—	—	6,860	386	5.6%	
	2 回 目	—	—	—	—	—	—	6,910	306	4.4%	
	3 回 目	—	—	—	—	—	—	7,019	178	2.5%	
水痘	1 回 目	1,477	1,450	1,520	(1) 1,488	1,322	1,292	1,319	1,290	97.8%	
	2 回 目	1,359	1,336	1,467	1,444	1,234	1,211	1,177	1,171	99.5%	
B 型 肝 炎	1 回 目	1,627	(2) 1,569	1,578	1,556	1,582	1,496	1,421	1,377	96.9%	
	2 回 目	1,605	1,555	1,591	1,556	1,598	1,470	1,434	1,367	95.3%	
	3 回 目	1,466	1,429	1,628	1,515	1,649	1,309	1,456	1,286	88.3%	
ロ タ ウ イ ル ス	1 価	1 回 目	—	—	896	472	1,580	1,000	1,425	980	68.8%
		2 回 目	—	—	896	382	1,598	956	1,436	957	66.6%
	5 価	1 回 目	—	—	896	248	1,580	515	1,425	395	27.7%
		2 回 目	—	—	896	212	1,598	490	1,436	394	27.4%
		3 回 目	—	—	897	160	1,585	492	1,423	389	27.3%
	高齢者 インフルエンザ		46,741	22,079	46,884	29,670	46,398	25,654	45,939	28,367	61.7%
高齢者の 肺炎球菌感染症		5,966	1,448	5,993	1,825	6,026	1,722	6,483	1,745	26.9%	

※DPT（3種混合）・DPT-I PV（4種混合）・DT（2種混合）は、ジフテリア（D）・百日せき（P）・破傷風（T）・ポリオ（I PV）

※HPV感染症（子宮頸がん等）

- ・平成25年6月14日から積極的勧奨見合わせ
- ・令和2年10月から制度紹介通知を送付
- ・令和4年4月から積極的勧奨再開・キャッチアップ接種開始

※風しん（第V期）

- ・平成31年2月から定期予防接種に追加（当初令和3年度までとされたが、令和6年度までに延長）

※ロタウイルス

- ・令和2年10月から定期予防接種に追加
- ・被接種者は1価または5価を任意に選択して、各価の必要回数を接種する。

※日本脳炎は令和3年度中のワクチン供給量不足に伴い、一部年齢に対しての接種券送付を令和4年度に延期。

※高齢者インフルエンザ

令和2年度及び令和4年度は対象者に全額助成を実施。

※令和2年10月より接種間隔の変更(不活化ワクチン接種後の間隔の制限撤廃など)

※()内数値は、予診のみを別掲

(2) 任意予防接種

予防接種法の対象外の予防接種について、接種費用の助成を実施している。

(区単独事業)

種 別	対 象	実施件数
麻しん風しん混合	2歳～18歳まで(MR2期対象者除く)	12
小児インフルエンザ	生後6か月～15歳(中学3年生)	14,961
おたふくかぜ	満1歳以上就学前	1,235

(3) 風しん対策

先天性風しん症候群の予防を図るため、妊娠を希望する女性とその同居者を対象に風しん抗体検査を実施するとともに、抗体価の低い方に対し風しん予防接種費用を助成している。

(区単独事業)

種 別		実施件数
抗体検査	E I A法	155
	H I法	183
予防接種	風しん単抗原	65
	麻しん風しん混合	279

2 感染症対策

(1) 感染症患者発生状況

平成11年4月から感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律が施行された。同法に基づき、感染症患者を診断した医師からの届出によって感染症の発生状況を把握し、区民に還元することで感染症の拡大防止を図っている。

ア 2類・3類感染症発生届受理件数（区内医療機関）

区分		暦年	30	元	2	3	4
		総数	5	9	1	5	2
2類感染症	急性灰白髄炎（ポリオ）	0	0	0	0	0	0
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群（SARS）	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群（MERS）	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H5N1）	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ（H7N9）	0	0	0	0	0	0
3類感染症	コレラ	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0
	腸チフス	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌	5	9	1	5	2	

※2類感染症は「結核」を除く（別掲）。（毎年1月～12月の受理件数を計上）

保健師による疫学調査訪問・相談・指導等件数

訪問指導	面接相談	電話相談	文書等連絡	関係機関連絡
8	3	19,002	20	19,719

（合計数についてはP.144（ア）a家庭訪問等の件数の再掲）

イ 性感染症発生届出受理件数

区分	30	元	2	3	4
後天性免疫不全症候群	9	5	7	4	2
梅毒	135	108	70	141	173

（毎年1月～12月の受理件数を計上）

(2) 患者発生時保菌者検索

感染症患者および無症状病原体保有者（下痢、腹痛、発熱等の症状はないが病原体を保有している者）に対し、適切な治療や処置が行われた後、検便により病原体を保有していないことを確認している。また、まん延防止上必要な場合、患者の家族や関係者に対しても、検便を行っている。

検 査 項 目		検査件数	陽性数
総 数		14	0
内 訳	赤 痢	0	0
	腸チフス	6	0
	パラチフス	0	0
	コレラ	0	0
	腸管出血性大腸菌	8	0
	そ の 他	0	0

(3) 相談・調査

感染症に関する他自治体からの調査依頼や、施設からの相談に対応している。

また、区内施設から感染症の集団発生があった時には報告を受けて積極的疫学調査を実施する。感染症拡大防止のための対策を施設と検討し、集団感染の終息を確認している。

ア 感染症対応事例（新型コロナウイルス感染症・結核を除く）※疑い例含む

1類感染症	2類感染症	3類感染症	4類感染症	5類感染症	その他
0	0	7	13	52	10

イ 区内集団発生（予防対策を含む）・施設別相談対応・調査実施件数（結核を除く）
（(3)アからの再掲）※疑い例含む

	保育園・幼稚園	小学校・中学校	高校・大学・専門学校等	社会福祉施設等	医療機関	その他
インフルエンザ	18	5	0	1	0	0
感染性胃腸炎	13	0	0	3	0	1
腸管出血性大腸菌感染症	1	0	0	0	0	5
水痘	2	0	0	0	0	0
疥癬	0	0	0	1	0	1
手足口病	8	0	0	0	0	0
その他	7	0	0	0	2	14

(4) 講演会

感染症に関する知識等の普及啓発の場として、区主催の会合や区内施設に出向いて講演会を開催した。

回数	参加人数
1回	20人

3 結核対策

(1) 登録患者数

全国的に結核り患率は減少の傾向にあり、2021年は人口10万対9.2と、10未満となったため、日本は結核低まん延国となった。しかし、本区におけるり患率は国及び都に比べて依然と高い状況にある。結核と診断された患者を適切な医療につなげて、早期治療、療養支援（DOTS）を行っている。また、感染源や感染経路を調査し、新たな感染者や発病者の早期発見のための健康診断を行っている。

ア 登録患者数

(令和4年12月31日現在)

	総数	活 動 性 結 核										潜在性結核 感染症 (別掲)		
		総数	肺 結 核 活 動 性						肺外 結核 活動性	不活動 肺結核	活動性 不明			治療中
			総数	登録時 総数	喀痰塗 抹陽性	登録時 初回 治療	登録時 再 治療	登録時 その 他の結 核菌陽 性				登録時 菌陰 性・そ の他		
総 数	総数	110	40	30	17	16	1	10	3	10	50	20	10	15
	男	76	27	20	11	11	0	8	1	7	36	13	6	7
	女	34	13	10	6	5	1	2	2	3	14	7	4	8
0～4歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～9歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～14歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～19歳	総数	2	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	男	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
20～29歳	総数	4	1	1	1	1	0	0	0	0	1	2	0	1
	男	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1
30～39歳	総数	7	1	1	0	0	0	1	0	0	5	1	0	1
	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
	女	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
40～49歳	総数	11	2	2	2	2	0	0	0	0	4	5	1	1
	男	9	1	1	1	1	0	0	0	0	3	5	1	1
	女	2	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0
50～59歳	総数	14	5	4	1	1	0	2	1	1	8	1	0	5
	男	9	2	2	1	1	0	1	0	0	7	0	0	2
	女	5	3	2	0	0	0	1	1	1	1	1	0	3
60～69歳	総数	25	12	12	6	5	1	4	2	0	10	3	2	1
	男	19	9	9	4	4	0	4	1	0	8	2	1	0
	女	6	3	3	2	1	1	0	1	0	2	1	1	1
70～79歳	総数	20	6	5	4	4	0	1	0	1	10	4	1	3
	男	13	2	2	1	1	0	1	0	0	8	3	1	3
	女	7	4	3	3	3	0	0	0	1	2	1	0	0
80歳以上	総数	27	11	4	2	2	0	2	0	7	12	4	6	2
	男	19	11	4	2	2	0	2	0	7	5	3	3	0
	女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	3	2
年齢不詳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

イ 登録患者数〔受療状況別〕

(令和4年12月31日現在)

	総数	活動性結核								不活動性結核	活動性不明	
		総数	肺結核活動性						肺外結核活動性			
			登録時喀痰塗抹陽性			登録時その他の結核菌陽性	登録時菌陰性・その他					
			総数	初回治療	再治療							
総数	110	40	30	17	16	1	10	3	10	50	20	
受療状況	入院中	11	11	9	8	7	1	1	0	2	0	0
	外来治療中	27	26	19	7	7	0	9	3	7	0	1
	治療なし	71	3	2	2	2	0	0	0	1	50	18
	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ウ 登録患者数〔保険の種類・受療状況別〕

(令和4年12月31日現在)

	総数	被保険者		国民健康保険			後期高齢	生活保護	その他	不明	
		本人	家族	一般	退職本人	退職家族					
総数	110	16	5	27	0	0	27	30	4	1	
受療状況	入院中	11	2	2	1	0	0	2	4	0	0
	外来治療中	27	3	1	6	0	0	8	8	1	0
	治療なし	71	11	2	20	0	0	16	18	3	1
	不明	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0

エ 新登録患者数〔性別・年齢階級別〕

(令和4年12月31日現在)

		活 動 性 結 核									潜在性結核 感染症 (別掲)
		肺 結 核 活 動 性							肺外結核 活動性	治療中	
		総数	総数	登録時喀痰塗抹陽性			登録時 その他の 結核菌陽性	登録時 菌陰性 ・その他			
				総数	初回 治療	再 治療					
総 数	総数	36	23	12	11	1	9	2	13	17	
	男	27	18	9	9	0	8	1	9	12	
	女	9	5	3	2	1	1	1	4	5	
0～4歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5～9歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10～14歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15～19歳	総数	2	1	1	1	0	0	0	1	0	
	男	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
	女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
20～29歳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
30～39歳	総数	1	1	0	0	0	1	0	0	1	
	男	1	1	0	0	0	1	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
40～49歳	総数	2	2	1	1	0	1	0	0	2	
	男	2	2	1	1	0	1	0	0	2	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50～59歳	総数	3	3	1	1	0	1	1	0	1	
	男	1	1	1	1	0	0	0	0	1	
	女	2	2	0	0	0	1	1	0	0	
60～69歳	総数	10	10	6	5	1	3	1	0	3	
	男	8	8	4	4	0	3	1	0	2	
	女	2	2	2	1	1	0	0	0	1	
70～79歳	総数	7	3	2	2	0	1	0	4	5	
	男	4	2	1	1	0	1	0	2	5	
	女	3	1	1	1	0	0	0	2	0	
80歳 以上	総数	11	3	1	1	0	2	0	8	5	
	男	10	3	1	1	0	2	0	7	2	
	女	1	0	0	0	0	0	0	1	3	
年齢不詳	総数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(2) 医療費公費負担

ア 一般医療に対する公費負担

結核患者に対し感染症診査協議会の意見を聴いた上で、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第37条の2に規定する医療を受けるための費用について、95%（医療保険各法を先に適用）を公費で負担する。

区 分	申請件数	承認件数
総 数	92	90

イ 入院勧告に対する公費負担

登録時喀痰塗抹陽性の結核患者に対し同法第18条により就業を制限し、同法第19条及び第20条により結核病床を有する感染症指定医療機関に入院した場合において、同法第37条に規定する費用について、全額（医療保険各法を先に適用）を公費で負担する。ただし世帯の収入状況により、自己負担額が生じる場合がある。

区 分	申請件数	承認件数
総 数	56	56

(3) 結核に係る定期の健康診断

同法第53条の2により、事業者や学校にて実施する結核に係る定期の健康診断の対象外となる区民に対し、胸部エックス線検査を実施することとなっている。

65歳以上の者に対して、総合健診の中で胸部エックス線検査を実施した。

区 分	受診者数	エックス線検査	所見なし	所見あり				要精密
				治癒所見	異常陰影	心拡大	その他	
総合健診 (65歳以上)	24,241	14,893	8,530	1,617	496	2,075	1,881	294

(4) 接触者健康診断

同法第17条に基づき、結核患者と接触のあった人を対象に疫学調査を行い、健康診断を行っている。IGRA検査（血液検査）、ツベルクリン反応検査、胸部エックス線検査などを行い、結核に感染している人や発病している人をできるだけ早期に発見し、治療に結びつけている。

区 分	受診者数	エックス線検査		ツベルクリン反応		血液検査	
		異常なし	要精密	異常なし	要精密	陰性	要精密
総 数	206	71	5	0	0	122	8
患者家族	80	24	1	0	0	52	3
接触者	126	47	4	0	0	70	5

(5) 管理検診

同法第53条の13に基づき、結核患者として登録されている人を対象に、結核治療後の経過観察等のために、精密検査を実施している。

区分	受診者数	エックス線検査	異常なし 治癒所見	要精密
総数	75	75	74	1

(6) 重点地区結核検診 [結核対策特別促進事業]

主に旧山谷地区労働者を対象に、城北労働・福祉センター前に年2回CR車を派遣し、胸部エックス線検査を行っている。

区分	受診者数	エックス線検査結果				
		異常なし	治癒所見	経過観察	要精密	
					結核疑い	結核外
総数	38	22	6	0	10	0

(7) 路上生活者結核検診 [結核対策特別促進事業]

区内住所不定者を対象に、上野公園に年2回CR車を派遣し、胸部エックス線検査を行っている。

区分	受診者数	エックス線検査結果				
		異常なし	治癒所見	経過観察	要精密	
					結核疑い	結核外
総数	47	34	8	0	2	3

(8) 日本語学校留学生結核検診 [結核対策特別促進事業]

区内の日本語学校(16校)に在学する学生を対象に、胸部エックス線検査を行っている。結果を各学校に通知し、要精密者については紹介状を発行し、受診を指導している。

区分	受診者数	エックス線検査結果					
		異常なし	治癒所見	経過観察	要精密		
					結核疑い	結核外	異常なし
総数	1,263	1,252	4	5	2	0	0

(9) デインジャーグループ向け結核講演会

デインジャーグループ（医療従事者、学校・保育園関係者、社会福祉施設関係者等）とは、発病の危険は特に高くないが、もし結核を発病した場合には周囲の多くの人々に感染させる恐れが高い集団である。その対象者へ平時の健康管理や健診実施の必要性、結核に関する知識等の普及啓発の場として講演会を開催し、結核の拡大防止を図っている。

※ 令和4年度については、新型コロナウイルス感染症感染拡大により未実施

(10) 保健指導・服薬支援

結核担当保健師は、平成17年度からDOTS（直接服薬確認療法）を導入し、結核治療の完遂と不規則な服薬による薬剤耐性結核の予防に重点をおいている。また、治療継続が困難な住所不定者に対しては城北労働・福祉センターや福祉事務所と連携をとりながら、療養支援を行っている。また、患者の家族やその他接触者に対する健康診断の実施や相談対応を行い、不安の軽減等を図っている。

区 分		年 度			
		元	2	3	4
訪 問		277	195	160	246
所 内 相 談	面接会場	447	334	258	134
	電話相談	592	986	841	419
	その他・文書	1,080	1,192	1,603	526
関係機関連絡	保健関係	81	343	263	147
	医療関係	101	332	315	176
	福祉関係	44	13	22	12
	その他	25	0	3	17

（合計数については P.141（ア） a 家庭訪問等の件数の再掲）

4 エイズ予防・性感染症対策

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく特定感染症対策として、希望者に対しH I V検査を行い、感染者の早期発見とエイズについての知識の普及・啓発及び相談事業を行っている。

平成25年末、H I V検査受診枠を拡大するため、梅毒検査を中止した。しかし、近年全国的に梅毒患者報告数が急増しているため、H I V抗体検査と同時に実施可能な梅毒の検査方法を検討し、平成29年5月からH I V検査と同じく梅毒即日検査を開始した。

(1) 検査件数

ア H I V検査（即日）

区分 \ 年度	30	元	2	3	4
検査者数	967	956	465	565	709
陽性者数	6	6	5	2	1

イ 梅毒検査（即日）

※梅毒検査は平成29年5月から再開

区分 \ 年度	30	元	2	3	4
検査者数	939	920	447	537	692
陽性数	40	52	44	58	68
治療必要者	17	15	20	25	17

(2) 相談件数

区分 \ 年度	30	元	2	3	4
電話相談	35	41	8	16	47
来所相談	1,013	972	487	578	714

※来所相談件数には、上記検査来所者を含む

(3) 講演会等

内容	対象	回数	人数
講演会	中・高等学校生徒	3	296

(4) 啓発活動

世界エイズデーキャンペーン、二十歳の集い等でポスター展示およびリーフレットやポケットティッシュ等の配布を行った。

5 精神保健

保健所は、地域における公衆衛生の第一線の行政機関として、精神保健諸問題の中心となり、精神科医、精神保健福祉センター、社会福祉関係諸機関、施設との緊密な連絡調整のもとに、精神障害の早期発見、早期治療、経済的問題、社会復帰を援助するため、相談及び指導を積極的に実施し、地域住民の健康保持、向上を図るための諸活動を行っている。

(1) 自立支援医療費（精神通院）公費負担

精神障害の適正な医療を普及するため、健康保険法の規定による病院、診療所、薬局において、精神障害者が病院及び診療所に入院せずに医療を受ける場合、その医療行為に必要な費用を所得区分に応じて公費で負担する。

発行件数

年 度	発行件数	
	自立支援医療(精神通院)	精神障害者保健福祉手帳
30	3,819	1,707
元	3,693	1,803
2	3,334	1,856
3	3,842	1,996
4	4,317	2,268

(2) 小児精神障害者入院医療費助成

東京都医療費助成実施要綱に基づき実施されている。

この対象者は、患者が都内に居住し、入院治療を必要とする満18歳未満の者で、精神病院に入院中の者に限られる。

申請件数

年 度	30	元	2	3	4
件 数	2	0	0	2	3

(3) 医療保護入院

医療保護入院とは、精神保健福祉法第33条の規定により、精神病院の管理者が診断の必要上、後見人、配偶者、親権を行う者、その他の扶養義務者の同意を得て、精神障害の疑いのある者を一時的に入院させる制度である。

医療保護入院の措置をとるには、10日以内に最寄りの保健所長を経由し、都道府県知事に届け出なければならない。

届出件数（法第33条）

年 度	30	元	2	3	4
件 数	3	0	0	0	0

(4) 警察官通報

警察官は、精神保健福祉法第23条の規定により、その職務を執行するにあたり、精神障害のため、自傷、他害の恐れのある者を発見したときには、直ちに最寄りの保健所長に通報しなければならない。その通報を受理した保健所長は、速やかに都へ報告しなければならない。

受案件数

年度	30	元	2	3	4
件数	85	64	59	78	90

(5) 措置入院者退院後支援

東京都の「措置入院者退院後支援ガイドライン」に基づき、退院後の社会復帰及び自立促進のため、本人同意を得た上で医療等必要な支援計画を作成する。

退院後支援に関する件数 6件 支援事例数 4件

(6) 精神保健福祉相談（こころの健康相談）

専門医師により、面接、訪問等を実施している。（予約制）

実人数：55人 延人数：57人

相談内容

区分	社会復帰	老人精神保健	依存症	思春期	心の健康づくり	一般精神	その他	計
延人数	1	3	4	2	17	24	6	57

(7) 精神保健福祉相談（大人の発達障害個別相談）

専門医師、臨床心理士による面接を実施している。（予約制）

実人数：37人 延人数：39人

(8) 家庭訪問・所内相談・電話相談・文書等による相談

保健師による相談を随時行なっている。

相談内容

(延人数)

区分	社会復帰	老人精神保健	依存症	思春期	心の健康づくり	一般精神	その他	計
訪問	41	1	11	45	21	321	59	499
面接	64	7	10	46	14	228	48	417
電話	273	24	74	164	245	1,997	423	3,200
文書	18	0	0	10	15	73	59	175
関係機関 関連絡	436	38	39	326	113	2,004	571	3,527

※合計数についてはP.144 (ア) a 家庭訪問等の件数の再掲

(9) 自殺未遂者支援

自殺未遂者や自殺の危険性が高い人について、医療機関等と連携し、確実に適切な支援につなげるための体制づくりをしたり、必要な方へ適切な支援が行き届くように、関係機関等との連携を進めています。

自殺未遂者支援者 8名

(10) 精神障害者社会復帰相談事業（発達障害者デイケア）

目的：発達障害者やその疑いのある方を対象に、コミュニケーション能力及び対人関係能力の向上を図るプログラムを実施することで、社会復帰を促進することを目的としている。

経緯：平成28年度に事業開始。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、変則開催。

年 度		30	元	2	3	4
実施 状況	回 数	48	44	19	42	42
	実人数	8	5	2	4	2
	延人数	102	70	33	71	34
利用 状況 の 年 度 末	終 了	1	1	0	1	0
	見学・体験のみ	3	3	0	1	1
	継 続	4	1	2	2	1

活動内容 生活技能訓練、コミュニケーション練習等

(11) 地域活動支援センター等に対する支援

精神障害者が、自立した日常生活を営むことができるようにすること等を目的として、地域活動支援センター及び障害福祉サービス事業所が設置されている。

入所決定時及び通所中は、地区担当保健師が通所者に対して、スムーズに利用できるよう支援している。

※実人数は、令和5年3月末現在の人数

区 分	名 称	実人数	訓 練 内 容 等
地域活動支援センター	あさがお	362	日常生活の相談及び支援、地域交流等 実人数：登録者数
	たいとう倶楽部	16	軽作業・レクリエーション
就労継続支援（A型）	HOPE	30	賃金データの入力、アクセサリーの製作等
就労継続支援（B型）	耕房“光”	20	軽作業・レクリエーション
	かれん	18	弁当作り・販売
	耕房“輝”	20	軽作業・レクリエーション
	ON+	18	レクリエーション・コーヒー等の製作及び移動販売
就労移行支援	さら就労塾@ぽればれ／秋葉原	16	企業就労のための訓練
	リファイン就労支援センター	59	企業就労のための訓練
生活介護	ダルク・セカンドチャンス	6	ミーティング・健康プログラム等
自立訓練	ダルク・セカンドチャンス	14	ミーティング・ボランティア等
自立訓練	インテグレーションセンター上野	26	ミーティング・ボランティア等
就労移行支援	メルディアトータルサポート上野	18	企業就労のための訓練
グループホーム	第1チェリーハウス	3	共同生活の場の提供と日常生活の指導
	第2チェリーハウス	3	共同生活の場の提供と日常生活の指導

(12) 障害福祉サービス

障害者総合支援法に基づき、障害のある方が住み慣れた地域で安心した日常生活ができるようサービスを行うことにより、精神障害者の自立と社会復帰を促進し、精神障害者の福祉の増進を図る。

サービス種類		年度	30	元	2	3	4
居宅介護	利用実人数		70	63	71	81	84
	利用延人数		610	628	672	801	855
	派遣延時間		3,737.0	3,856.0	3,392.0	3,978.0	4,790.5
短期入所	入所実人数		0	1	1	0	1
	入所延人数		0	3	1	0	1
	入所延日数		0	10	6	0	5
施設入所支援	入所実人数		2	2	1	1	1
	入所延人数		13	17	12	12	12
共同生活援助	入所実人数		90	75	74	74	78
	入所延人数		683	681	662	685	682
就労移行	利用実人数		63	75	78	81	90
	利用延人数		412	549	571	530	624
就労継続A	利用実人数		13	13	14	13	10
	利用延人数		92	110	117	114	97
就労継続B	利用実人数		141	136	141	145	163
	利用延人数		1,314	1,290	1,350	1,447	1,545
就労定着支援	利用実人数		7	17	24	33	35
	利用延人数		24	78	190	221	246
生活介護	利用実人数		11	9	7	8	5
	利用延人数		84	78	71	63	53
自立訓練(生活訓練)	利用実人数		42	39	46	60	65
	利用延人数		274	262	312	426	425
宿泊型自立訓練	利用実人数		1	3	3	3	1
	利用延人数		12	25	28	20	5
計画相談支援 給付	利用実人数		160	195	192	268	323
	利用延人数		495	589	795	899	1,111
地域移行支援	利用実人数		4	4	6	1	2
	利用延人数		24	20	27	4	11
放課後等デイ サービス	利用実人数		107	119	129	136	130
	利用延人数		1,404	1,658	1,359	1,660	1,720
保育所等訪問 支援	利用実人数		0	1	0	2	3
	利用延人数		0	1	0	20	23
自立生活援助	利用実人数		0	1	0	1	1
	利用延人数		0	1	0	1	12

6 難病等疾病対策

(1) 難病医療費等助成

特殊疾病は、原因がはっきりしないばかりか、療養には長期にわたる場合が多く、多額の経済的負担があり、治療を続けていくために幾多の困難に直面することが多い。

このため、経済的負担を少しでも軽くし治療を受けやすくするため、「東京都難病医療費等助成制度」により公費助成を行っている。平成27年1月1日の難病法施行に伴い、対象疾病が拡大された。

※平成27年1月以前国補助対象疾病56疾病、都単独助成23疾病、特殊医療費2疾病

▼対象疾病拡大

○平成27年1月 第一次拡大

国補助対象110疾病、都単独助成15疾病、特殊医療費2疾病

○平成27年7月 第二次拡大

国補助対象疾病306疾病、都単独助成8疾病、特殊医療費2疾病

○平成29年4月 第三次拡大

国補助対象疾病330疾病、都単独助成8疾病、特殊医療費2疾病

○平成30年4月 第四次拡大

国補助対象疾病331疾病、都単独助成8疾病、特殊医療費2疾病

○令和元年7月 第五次拡大

国補助対象疾病333疾病、都単独助成8疾病、特殊医療費2疾病

○令和3年11月 第六次拡大

国補助対象疾病338疾病、都単独助成8疾病、特殊医療費2疾病

対象疾病及び登録患者数

国の対象疾病

(年度末現在)

区分	年度	30	元	2	3	4	
告示番号	疾病名	総数	2,226	2,312	2,360	2,582	2,525
1	球脊髄性筋萎縮症	3	3	4	3	3	
2	筋萎縮性側索硬化症	14	18	21	22	22	
3	脊髄性筋萎縮症	1	1	1	1	1	
4	原発性側索硬化症	1	1	1	1	1	
5	進行性核上性麻痺	19	25	24	26	21	
6	パーキンソン病	197	217	222	229	205	
7	大脳皮質基底核変性症	12	11	13	10	8	
8	ハンチントン病	0	1	1	1	1	
9	神経有棘赤血球症	0	0	0	0	0	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	5	5	5	5	4	
11	重症筋無力症	38	43	45	51	52	
12	先天性筋無力症候群	0	0	0	0	0	
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	41	38	37	42	46	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	7	8	9	10	10	
15	封入体筋炎	1	1	1	1	1	
16	クロウ・深瀬症候群	0	0	1	0	0	
17	多系統萎縮症	17	18	16	20	15	
18	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）	50	49	49	47	40	
19	ライソゾーム病	2	3	4	4	2	
20	副腎白質ジストロフィー	1	1	1	1	1	
21	ミトコンドリア病	1	0	1	1	2	
22	もやもや病	23	24	26	31	28	
23	プリオン病	0	0	1	1	0	
24	亜急性硬化性全脳炎	0	0	0	0	0	
25	進行性多巣性白質脳症	0	0	0	0	0	

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
26	H T L V - 1 関 連 脊 髄 症	0	0	0	0	0
27	特 発 性 基 底 核 石 灰 化 症	1	1	1	1	1
28	全 身 性 ア ミ ロ イ ド ー シ ス	3	5	8	9	13
29	ウ ル リ ッ ヒ 病	0	0	0	0	0
30	遠 位 型 ミ オ パ チ ー	0	0	0	0	0
31	ベ ス レ ム ミ オ パ チ ー	0	0	1	1	1
32	自 己 貪 食 空 胞 性 ミ オ パ チ ー	0	0	0	0	0
33	シ ュ ワ ル ツ ・ ヤ ン ペ ル 症 候 群	0	0	0	0	0
34	神 経 線 維 腫 症	5	4	4	4	4
35	天 疱 瘡	5	1	1	1	2
36	表 皮 水 疱 症	3	3	4	4	4
37	膿 疱 性 乾 癬 (汎 発 型)	6	5	8	6	6
38	ス テ ィ ー ヴ ン ス ・ ジ ョ ン ソ ン 症 候 群	0	0	1	1	0
39	中 毒 性 表 皮 壊 死 症	0	0	0	0	1
40	高 安 動 脈 炎	8	7	8	12	10
41	巨 細 胞 性 動 脈 炎	7	9	7	9	10
42	結 節 性 多 発 動 脈 炎	3	4	4	5	5
43	顕 微 鏡 的 多 発 血 管 炎	12	14	19	19	23
44	多 発 血 管 炎 性 肉 芽 腫 症	10	8	8	9	11
45	好 酸 球 性 多 発 血 管 炎 性 肉 芽 腫 症	9	8	9	11	14
46	悪 性 関 節 リ ウ マ チ	11	11	9	10	11
47	バ ー ジ ャ ー 病	3	4	4	3	2
48	原 発 性 抗 リ ン 脂 質 抗 体 症 候 群	1	2	2	2	1
49	全 身 性 エ リ テ マ ト ー デ ス	100	110	114	123	112
50	皮 膚 筋 炎 / 多 発 性 筋 炎	34	39	34	41	43
51	全 身 性 強 皮 症	41	37	42	42	48
52	混 合 性 結 合 組 織 病	26	24	23	25	25
53	シ ェ ー グ レ ン 症 候 群	28	33	42	50	50
54	成 人 ス チ ル 病	10	11	10	12	13
55	再 発 性 多 発 軟 骨 炎	2	3	3	2	2
56	ペ ー チ ョ ッ ト 病	32	31	32	37	32
57	特 発 性 拡 張 型 心 筋 症	33	28	26	25	25
58	肥 大 型 心 筋 症	10	10	10	9	7
59	拘 束 型 心 筋 症	0	0	0	0	0
60	再 生 不 良 性 貧 血	15	13	12	16	16
61	自 己 免 疫 性 溶 血 性 貧 血	2	1	1	1	4
62	発 作 性 夜 間 ヘ モ グ ロ ビ ン 尿 症	0	0	0	0	0
63	特 発 性 血 小 板 減 少 性 紫 斑 病	44	40	31	39	26
64	血 栓 性 血 小 板 減 少 性 紫 斑 病	0	2	2	1	0
65	原 発 性 免 疫 不 全 症 候 群	4	5	5	8	7
66	I g A 腎 症	7	12	12	16	19
67	多 発 性 嚢 胞 腎	19	21	22	20	22
68	黄 色 韌 帯 骨 化 症	15	12	12	15	14
69	後 縦 韌 帯 骨 化 症	42	42	41	56	50
70	広 範 脊 柱 管 狭 窄 症	5	7	8	10	11
71	特 発 性 大 腿 骨 頭 壊 死 症	29	33	35	40	37
72	下 垂 体 性 A D H 分 泌 異 常 症	5	5	4	4	4
73	下 垂 体 性 T S H 分 泌 亢 進 症	0	0	1	2	1
74	下 垂 体 性 P R L 分 泌 亢 進 症	3	1	2	3	4
75	ク ッ シ ン グ 病	1	1	1	1	0
76	下 垂 体 性 ゴ ナ ド ト ロ ビ ン 分 泌 亢 進 症	0	0	0	0	0

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	6	5	5	7	5
78	下垂体前葉機能低下症	24	21	26	29	31
79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0	0	0	0	0
80	甲状腺ホルモン不応症	0	1	0	0	0
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1	1	1	1	1
82	先天性副腎低形成症	0	0	0	0	0
83	アジソン病	0	0	0	0	0
84	サルコイドーシス	31	30	30	32	35
85	特発性間質性肺炎	37	42	37	42	40
86	肺動脈性肺高血圧症	9	8	7	9	7
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0	0	0	0	0
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4	7	6	6	6
89	リンパ脈管筋腫症	1	4	1	1	1
90	網膜色素変性症	36	34	34	33	35
91	バッド・キアリ症候群	0	0	0	0	0
92	特発性門脈圧亢進症	0	0	0	0	0
93	原発性胆汁性胆管炎	31	28	26	26	24
94	原発性硬化性胆管炎	0	0	0	1	1
95	自己免疫性肝炎	20	19	23	24	22
96	クローン病	67	70	81	87	86
97	潰瘍性大腸炎	253	256	256	296	304
98	好酸球性消化管疾患	1	2	2	1	1
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1	1	1	0	0
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0	0	0	0	0
101	腸管神経節細胞僅少症	0	0	0	0	0
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0	0	0	0	0
103	C F C 症候群	0	0	0	0	0
104	コステロ症候群	0	0	0	0	0
105	チャージ症候群	0	0	0	0	0
106	クリオピリン関連周期熱症候群	0	0	0	0	0
107	若年性特発性関節炎	1	1	2	2	3
108	T N F 受容体関連周期性症候群	0	0	0	0	0
109	非典型溶血性尿毒症症候群	1	1	0	0	0
110	ブラウ症候群	0	0	0	0	0
111	先天性ミオパチー	0	0	0	0	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	0	0	0	0
113	筋ジストロフィー	5	5	4	4	6
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	1	1	1	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	1	0	0	0	0
116	アトピー性脊髄炎	0	0	0	0	0
117	脊髄空洞症	2	1	2	2	3
118	脊髄髄膜瘤	0	0	0	0	0
119	アイザックス症候群	1	1	1	2	2
120	遺伝性ジストニア	0	0	0	0	0
121	神経フェリチン症	0	0	0	0	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	0	0	0	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	0	0	0	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	0	0	0	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	0	0	0	0
126	ペリー症候群	0	0	0	0	0
127	前頭側頭葉変性症	2	3	4	6	4

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1	1	1	1	1
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	0	0	0	0
130	先天性無痛無汗症	0	0	0	0	0
131	アレキサンダー病	1	1	1	1	1
132	先天性核上性球麻痺	0	0	0	0	0
133	メビウス症候群	0	0	0	0	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	0	0	0	0
135	アイカルディ症候群	0	0	0	0	0
136	片側巨脳症	0	0	0	0	0
137	限局性皮質異形成	0	0	0	0	0
138	神経細胞移動異常症	0	0	0	0	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	0	0	0	0
140	ドラベ症候群	0	0	0	0	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	1	1	1	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	0	0	0	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	0	0	0	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	0	0	0	0
145	ウエスト症候群	0	0	0	0	0
146	大田原症候群	0	0	0	0	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	0	0	0	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	0	0	0	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	0	0	0	0
150	環状20番染色体症候群	0	0	0	0	0
151	ラスムッセン脳炎	0	0	0	0	0
152	PCDH19関連症候群	0	0	0	0	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	0	0	0	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	0	0	0	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	0	0	0	0
156	レット症候群	0	0	0	0	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	0	0	0	0
158	結節性硬化症	1	1	1	1	1
159	色素性乾皮症	0	0	0	0	0
160	先天性魚鱗癬	0	0	0	0	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	0	0	0	0
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	3	6	10	12	10
163	特発性後天性全身性無汗症	0	0	1	2	2
164	眼皮膚白皮症	0	0	0	0	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	0	0	0	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	0	0	0	0	0
167	マルファン症候群	2	1	1	1	1
168	エーラス・ダンロス症候群	3	3	3	2	2
169	メンケス病	0	0	0	0	0
170	オキシピタル・ホーン症候群	0	0	0	0	0
171	ウィルソン病	2	2	2	2	3
172	低ホスファターゼ症	0	0	0	0	0
173	VATER症候群	0	0	0	0	0
174	那須・ハコラ病	0	0	0	0	0
175	ウィーバー症候群	0	0	0	0	0
176	コフィン・ローリー症候群	0	0	0	0	0
177	ジュベール症候群関連疾患	0	0	0	0	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0	0	0	0	0

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
179	ウィリアムズ症候群	0	0	0	0	0
180	A T R - X症候群	0	0	0	0	0
181	クルーゾン症候群	0	0	0	0	0
182	アペール症候群	0	0	0	0	0
183	ファイファー症候群	0	0	0	0	0
184	アントレー・ビクスラー症候群	0	0	0	0	0
185	コフィン・シリス症候群	0	0	0	0	0
186	ロスムンド・トムソン症候群	0	0	0	0	0
187	歌舞伎症候群	0	0	0	0	0
188	多脾症候群	0	0	0	0	0
189	無脾症候群	0	0	0	0	0
190	鰓耳腎症候群	0	0	0	0	0
191	ウェルナー症候群	0	1	1	1	1
192	コケイン症候群	0	0	0	0	0
193	プラダー・ウィリ症候群	0	0	0	0	0
194	ソトス症候群	0	0	0	0	1
195	スーナン症候群	0	0	0	0	0
196	ヤング・シンプソン症候群	0	0	0	0	0
197	1 p 36欠失症候群	0	0	0	0	0
198	4 p欠失症候群	0	0	0	0	0
199	5 p欠失症候群	0	0	0	0	0
200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0	0	0	0	0
201	アンジェルマン症候群	0	0	0	0	0
202	スミス・マギニス症候群	0	0	0	0	0
203	22q11. 2欠失症候群	0	0	0	0	0
204	エマヌエル症候群	0	0	0	0	0
205	脆弱X症候群関連疾患	0	0	0	0	0
206	脆弱X症候群	0	0	0	0	0
207	総動脈幹遺残症	0	0	0	0	0
208	修正大血管転位症	0	0	0	0	0
209	完全大血管転位症	0	0	1	1	1
210	単心室症	2	2	2	2	2
211	左心低形成症候群	0	0	0	0	0
212	三尖弁閉鎖症	0	0	0	0	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	0	0	0	1
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	0	0	0	0
215	ファロー四徴症	0	0	1	2	2
216	両大血管右室起始症	0	0	1	1	1
217	エプスタイン病	0	0	0	1	1
218	アルポート症候群	0	0	0	0	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	0	0	0	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	4	3	2	2
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	0	0	0	0
222	一次性ネフローゼ症候群	34	31	37	42	43
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	2	2	2	1
224	紫斑病性腎炎	1	2	3	4	3
225	先天性腎性尿崩症	0	0	0	0	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1	1	1	2	3
227	オスラー病	2	2	2	2	2
228	閉塞性細気管支炎	0	0	0	0	0
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	0	0	0	0

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
230	肺胞低換気症候群	0	0	0	0	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	0	0	0	0
232	カーニー複合	0	0	0	0	0
233	ウォルフラム症候群	0	0	0	0	0
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	0	0	0	0
235	副甲状腺機能低下症	0	0	0	0	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	0	0	0	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	0	0	0	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	0	2	2	1
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	0	0	0	0
240	フェニルケトン尿症	0	0	0	0	0
241	高チロシン血症1型	0	0	0	0	0
242	高チロシン血症2型	0	0	0	0	0
243	高チロシン血症3型	0	0	0	0	0
244	メープルシロップ尿症	0	0	0	0	0
245	プロピオン酸血症	0	0	0	0	0
246	メチルマロン酸血症	0	0	0	0	0
247	イソ吉草酸血症	0	0	0	0	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	0	0	0	0
249	グルタル酸血症1型	0	0	0	0	0
250	グルタル酸血症2型	0	0	0	0	0
251	尿素サイクル異常症	0	0	1	1	2
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	0	0	0	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	0	0	0	0
254	ポルフィリン症	1	1	1	1	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	0	0	0	0
256	筋型糖原病	0	0	0	0	0
257	肝型糖原病	0	0	0	0	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	0	0	0	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	0	0	0	0
260	シトステロール血症	0	0	0	0	0
261	タンジール病	0	0	0	0	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	0	0	0	0
263	脳腱黄色腫症	0	0	0	0	0
264	無 β リポタンパク血症	0	0	0	0	0
265	脂肪萎縮症	0	0	0	0	0
266	家族性地中海熱	0	0	0	1	2
267	高IgD症候群	0	0	0	0	0
268	中條・西村症候群	0	0	0	0	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	0	0	0	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	0	0	1	1
271	強直性脊椎炎	9	5	8	7	10
272	進行性骨化性線維異形成症	0	0	0	0	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	0	0	0	0
274	骨形成不全症	2	2	1	1	1
275	タナトフォリック骨異形成症	0	0	0	0	0
276	軟骨無形成症	0	0	0	0	0
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0	0	0	0	0
278	巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）	0	0	0	0	0
279	巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病変）	0	1	1	1	0
280	巨大動静脈奇形（頸部顔面又は四肢病変）	0	0	0	0	0

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0	0	0	0	0
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	0	0	0	0
283	後天性赤芽球癆	3	2	2	3	4
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0	1	1	1	1
285	ファンコニ貧血	0	0	0	0	0
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	0	0	0	0
287	エプスタイン症候群	0	0	0	0	0
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1	2	2	2	2
289	クロンカイト・カナダ症候群	0	0	0	0	0
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0	0	0	0	0
291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	0	0	0	0	0
292	総排泄腔外反症	0	0	0	0	0
293	総排泄腔遺残	0	0	0	0	0
294	先天性横隔膜ヘルニア	0	0	0	0	0
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	0	0	0	0
296	胆道閉鎖症	3	4	4	5	5
297	アラジール症候群	0	0	0	0	0
298	遺伝性膀胱炎	0	0	0	0	0
299	嚢胞性線維症	0	0	0	0	0
300	I g G 4 関連疾患	10	9	11	13	11
301	黄斑ジストロフィー	0	0	0	0	0
302	レーベル遺伝性視神経症	0	1	1	1	1
303	アッシャー症候群	0	0	0	0	0
304	若年発症型両側性感音難聴	0	0	0	0	1
305	遅発性内リンパ水腫	0	0	0	0	0
306	好酸球性副鼻腔炎	21	26	31	47	70
307	カナバン病	0	0	0	0	0
308	進行性白質脳症	0	0	0	0	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	0	0	0	0
310	先天異常症候群	0	0	0	0	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	0	0	0	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	0	0	0	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	0	0	0	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	0	0	0	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX 1 B 関連腎症	0	0	0	0	0
316	カルニチン回路異常症	0	0	0	0	0
317	三頭酵素欠損症	0	0	0	0	0
318	シトリン欠損症	0	0	0	0	0
319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0	0	0	0	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0	0	0	0	0
321	非ケトーシス型高グリシン血症	0	0	0	0	0
322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0	0	0	0	0
323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0	0	0	0	0
324	メチルグルタコン酸尿症	0	0	0	0	0
325	遺伝性自己炎症疾患	0	0	0	0	0
326	大理石骨病	0	0	0	0	0
327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0	0	1	1	1
328	前眼部形成異常	0	0	0	0	0
329	無虹彩症	0	0	0	0	0
330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	0	0	0	0	0
331	特発性多中心性キャッスルマン病	0	0	1	1	1

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	-	0	0	0	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	-	0	0	0	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	-	-	-	0	0
335	ネフロン癆	-	-	-	0	0
336	家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）	-	-	-	0	0
337	ホモシスチン尿症	-	-	-	0	0
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	-	-	-	0	0

特殊医療費

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
1	人工透析を必要とする腎不全	545	569	548	566	536
2	先天性血液凝固因子欠乏症	7	7	7	11	11

都の対象疾病

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
77	悪性高血圧	0	0	0	0	0
80	原発性骨髄線維症	1	1	2	3	3
83	母 斑 症	2	1	1	1	0
88	古典的特発性好酸球増多症候群	0	0	0	0	0
91	びまん性汎細気管支炎	2	2	1	1	1
95	遺伝性QT延長症候群	1	1	1	1	1
97	網膜脈絡膜萎縮症	0	0	0	0	0
866	肝内結石症	0	0	1	1	1

【B型・C型ウイルス肝炎治療医療費助成制度】

平成14年10月1日から「B型・C型ウイルス肝炎入院医療費助成制度」が始まり、都単独事業として平成19年10月からC型ウイルス肝炎インターフェロン治療費助成を行っていたが、平成20年4月から全国制度としてB型・C型ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療の医療費助成が開始され、以降都も国制度に基づき実施している。

平成26年9月からC型慢性肝炎に対するインターフェロンフリー治療が助成の対象となり、その後もレジパスビル/ソホスブビルなどの新薬剤が助成対象として追加された。

平成27年12月からC型ウイルス肝炎インターフェロンフリー治療不成功後の再治療が医療費助成の対象となっている。

平成30年12月からB型・C型肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変の入院医療費への助成が受けられることとなった。

令和3年4月からB型・C型肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変の外来医療（分子標的薬を用いた化学療法、肝動注化学療法）を助成対象に追加するなどの見直しが行われた。

登録患者数

（年度末現在）

区 分	年 度	3 0	元	2	3	4
B型・C型ウイルス肝炎インターフェロン		4	5	4	1	1
核酸アナログ製剤治療（B型肝炎）		144	144	147	152	150
3剤併用療法（C型肝炎）		0	0	0	0	0
インターフェロンフリー治療（C型肝炎）		24	21	23	17	18
肝がん・重度肝硬変の医療費への助成		0	0	0	0	0

(2) 難病患者等支援

障害者総合支援法に基づき、難病患者等が居宅において日常生活を営むことができるようサービスを行うことにより、難病患者等の自立と社会復帰を促進する。

サービス種類		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
居宅介護	利用実人員	4	0	0	0	1
	利用延人数	31	0	0	0	1
	派遣延時間	778.00	0.00	0.00	0.00	3.00
就労移行支援	利用実人員	0	1	0	2	0
	利用延人数	0	6	0	6	0
就労継続B	利用実人員	1	1	1	1	1
	利用延人数	12	5	11	12	13
計画相談支援給付	利用実人員	3	0	1	1	2
	利用延人数	5	0	11	1	8
放課後等デイサービス	利用実人員	1	1	0	0	0
	利用延人数	12	15	0	0	0
就労定着支援	利用実人員	0	0	0	0	1
	利用延人数	0	0	0	0	3

(3) 日常生活用具給付等事業

台東区障害者地域生活支援事業実施要綱に基づき、在宅難病患者が日常生活を容易にするため、日常生活用具の給付を行う。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
件数	0	3	3	3	3

(4) 在宅難病患者医療機器貸与

吸入器及び吸引器を、在宅難病患者の方に貸与することによって、患者・家庭の経済的負担の軽減と療養環境の向上を図る。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
吸入器	0	0	0	0	0
吸引器	1	1	1	1	1

(5) 在宅人工呼吸器難病患者訪問看護事業

在宅療養中の人工呼吸器使用難病患者が、医療保険で定める回数を超えて1日複数回の介護が受けられるよう、訪問看護ステーションに委託することで療養環境の整備と実態把握を行う。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者数	1	2	2	2	4

(6) 在宅難病患者一時入院事業

在宅難病患者の介護者の病気、休息などの理由によって一時的に介護ができなくなった場合、都がベッドを確保した病院に患者が短期間入院できるもので、安定した療養生活の確保と介護の福祉の向上を図る。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者数	1	3	0	3	3

(7) 在宅人工呼吸器使用者災害時支援事業

避難行動要支援者の中でも特に支援の緊急性が高い在宅人工呼吸器使用者について、避難支援を含めた災害時個別支援計画を作成し、災害への備え及び災害発生時の適切な対応を行う。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
災害時個別支援計画作成者数	9	13	13	15	24

※作成者数は新規・更新の合計

7 大気汚染認定審査会の運営

当事業は、「大気汚染に係る健康障害者に対する医療費の助成に関する条例」(昭和47年東京都条例第117号)に基づき、大気汚染の影響を受けると推定される疾病(気管支ぜん息及びその続発症。18歳未満は慢性気管支炎、ぜん息性気管支炎、肺気しゅ及びこれらの続発症も該当する)にかかった都内在住者に対し医療費を助成し、その者の健康障害の救済を図ることを目的としており、保健所において認定審査会を行い、東京都が医療費の助成を行っている。

認定審査会開催回数：12回

認定登録状況一覧表

(令和5年3月31日現在)

区 分		年 度		27	28	29	30	元	2	3	4	0~17 歳	
		申請件数	認定件数										
登 録 件 数	年 間	申請件数	認定件数	593	474	579	373	408	348	374	294	4	
		申請件数	認定件数	593	474	579	373	408	348	374	294	4	
	年度末実績				1,231	1,140	1,045	946	777	748	692	655	15
	疾 病 別	慢 性 気 管 支 炎	年間認定件数	年度末実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			年間認定件数	年度末実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内 訳	気 管 支 ぜん 息	年間認定件数	年度末実人員	593	474	579	373	408	348	374	294	4
			年間認定件数	年度末実人員	1,231	1,140	1,045	946	777	748	692	655	15
		ぜん 息 性 気 管 支 炎	年間認定件数	年度末実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			年間認定件数	年度末実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		肺 気 し ゅ	年間認定件数	年度末実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			年間認定件数	年度末実人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【登録状況一覧表】

1. 年間の申請件数・認定件数は、新規申請・更新申請の申請者数・認定者数を合わせた件数となる。
2. 認定者数の年度末実人員は、認定期間が2年間であること及び転出入・失権(更新せずに他医療給付制度受給)などによって変動することがある。
よって、年間認定件数と一致しない。

【医療費制度改正】

1. 平成20年8月に、現行の18歳以上に対する医療費の助成制度を見直し、気管支ぜん息に罹患した患者の医療費助成を全年齢に拡充した。
なお、慢性気管支炎、ぜん息性気管支炎及び肺気しゅは、引き続き18歳未満が対象である。
2. 平成27年3月末日で18歳以上の新規申請の受付を終了した。
3. 平成30年4月1日から18歳以上の認定者については、自己負担制度が導入された。(月額自己負担限度額：6,000円)

8 公害健康被害補償事業

当区は、昭和50年12月に公害健康被害の補償等に関する法律による第一種地域に指定され、大気汚染の影響による健康被害の補償及び保健福祉事業を行ってきた。この間、硫黄酸化物等の大気汚染の主たる原因の発生源の規制強化が進められ、その著しい減少をもたらすという改善が図られたが、時の経過とともに大気汚染の態様が変化し、現在においては、移動発生源である自動車の排出ガス等による窒素酸化物が大半を占めるに至っている。この結果、無過失責任制を取る原因者負担の制度から地域的に指定することの合理性が失われ、昭和63年3月全国的に第一種地域はすべて解除されたが、既被認定者等に対する補償給付は継続されている。

補償給付事業と平行しながら、大気汚染が総体として気管支ぜん息・慢性閉塞性肺疾患に何らかの影響を及ぼしている可能性が否定できない現状を踏まえ、旧第一種地域としての当区は、総合的な環境保健に関する諸施策を推進し、全区民を対象として、大気汚染の影響による健康被害の予防と健康の保持増進を図っている。

(1) 補償給付事業

第一種指定地域の解除により新規認定は解除されたが、既被認定者に対しては、当該認定が有効である間は引き続き補償給付を支給する。

なお、有効期限内に指定疾病が治癒しない場合は、認定審査会がその更新と障害の程度の見直しを行う。

ア 既認定者数

指定疾病及び障害の程度(令和5年3月31日現在) (単位:人)

区 分	特級	1級	2級	3級	級外	計
総 数	0	0	2	101	167	270
慢性気管支炎	0	0	0	1	0	1
気管支ぜん息	0	0	2	100	167	269
ぜん息性気管支炎	0	0	0	0	0	0
肺気しゅ	0	0	0	0	0	0

居住地別人員(令和5年3月31日現在) (単位:人)

	男	女	計
区 内 在 住 者	98	93	191
区 外 在 住 者	34	45	79
計	132	138	270

イ 既認定者数の推移(各年度末現在)

(単位:人)

区分 \ 年度	29	30	元	2	3	4
総 数	346	340	313	301	287	270
慢性気管支炎	1	1	1	1	1	1
気管支ぜん息	345	339	312	300	286	269
ぜん息性気管支炎	0	0	0	0	0	0
肺気しゅ	0	0	0	0	0	0

ウ 補償給付の種類と実績

(単位:件、円、%)

給付内容		件数	給付金額	同構成比
	総 数	5,452	193,065,536	100.00
療養の給付及び療養費	公害医療機関等における診療とその他の医療費の支払い	3,660	81,410,496	67.13
障害補償費	障害の程度に対応する補償の給付	1,288	89,734,740	23.62
遺族補償費	認定に係る指定疾病を起因とする死亡の遺族に対する給付	108	12,244,300	1.98
遺族補償一時金	遺族補償費を受けられる遺族がない場合の給付	0	0	0
児童補償手当	15歳未満の者で障害補償費に対応する給付で養育者に支給するもの	0	0	0
療養手当	通院・入院等療養に要する諸経費に相応する給付	395	9,391,000	7.25
葬祭料	認定に係る指定疾病を起因として死亡したときの葬儀経費の給付	1	285,000	0.02

エ 公害健康被害認定審査会

第一種指定地域解除後も、既被認定者に対する補償給付を継続しているため、認定の更新と障害程度の見直し等の審査を行う。

委員構成:10名 (内訳 医学:7、法律:2、行政(医):1)

令和4年度審査件数:151件 (開催回数:11回)

内訳

認定の更新:47件

認定の更新及び障害程度の見直し:29件

障害程度の見直し:72件

遺族補償給付関係:2件

等級請求:1件(認定の更新と同時審査のため再掲)

等級改定:1件

異議申立:0件

オ 公害医療機関

公害医療機関とは、法による被認定者の医療の給付を取り扱うもので、特に都道府県知事に対しその辞退を申し出たものを除き、健保医療機関及び保険薬局、国保療養取扱機関、生保指定医療機関並びに総理府令で定める病院・診療所をいう。

当区における公害医療機関のうち、医学的検査委託機関は次のとおりである。

(ア) 公益財団法人 ライフエクステンション研究所附属永寿総合病院

(イ) 社会福祉法人 浅草寺病院

(2) 公害保健福祉事業

公害によって損なわれた健康の回復とその保持・増進を図り、被認定者の福祉の向上と指定疾病による被害を防止する。

ア インフルエンザ予防接種費用助成

被認定者に対し、予防接種法に基づくインフルエンザ予防接種の自己負担分を助成し、健康の保持を図る。

助成件数：81 件

(3)健康被害予防事業

汚染原因者の社会的責任を踏まえ、既認定者のみに対する旧制度を補完し、大気汚染に関する健康被害の発現の予防をより効果あるものとするため広く地域全体の人口集団を対象とする。気管支ぜん息・慢性閉塞性肺疾患に関する予防から回復までの総合的な環境保健事業に係る一連の施策の中で、事業の内容によって公害保健福祉事業と類似するものは、両事業を統合実施することにより、その効率化を図っている。

ア 健康相談事業

区民全体を対象に、専門医、看護師がアレルギー性疾患・慢性閉塞性肺疾患等に関する相談及び指導を行うことにより、当該疾病の予防並びに当該疾患に係る患者の健康の回復、保持及び増進に関する知識の普及及び意識の向上を図る。被認定者でなくなった制度離脱者に対するフォローアップも含む。

(ア)専門医による相談

実施日：年4回 偶数月 第4金曜日(8・12月は中止)

実施場所：台東保健所 会議室

担当医：川間春日町整形外科小児科クリニック 宮川 政昭 氏

相談件数：6件〔内訳：小児科2件、内科(成人)4件〕

相談実績

相談内容	延件数	
生活について	生活の工夫	1
	食事について	1
	室内環境	1
	タバコ	1
治療に関する事	治療法	4
	薬の使い方	3
	副作用	1
	検査	2
症状に関する事	発作への対応	1
	かゆみ	1
	悪化不安	1
	その他の症状	1
病気に関する事	知識	6
	予後	1
その他の事	医療機関	2
	精神的対応	6
	予防接種	0

(イ)看護師による相談

実施日：年20回 毎月第2・4木曜日(8・11・2・3月に1回中止)

実施場所：台東保健所

担 当：看護師

相談件数：52件

イ 機能訓練事業

(ア)水泳訓練教室

医師による健康管理のもと、水泳指導員の指導により水泳を通じて心身の鍛錬を行い、当該児童の健康の回復、保持及び増進を図ることを目的とする。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

(イ)音楽療法教室

音楽療法士の指導により楽しみながら腹式呼吸法を体得するとともに、心身の安定を図ることを目的とする。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。